

東日本大震災学習会(2011年5月28日)

新建震災復興支援会議からの報告

震災復興支援会議事務局次長

松木 康高

新建の東日本大震災についての 取り組み

- * 第一次声明と救済募金
- * 震災復興支援会議の立ち上げ
- * 先遣隊の派遣（仙台市で被災地会員との合同会議）、
報告会の開催（東京支部共催）
- * 震災復興支援会議ホームページ、
メーリングリストの立ち上げ
<http://www.fukkoushien-nuae.org/>
- * 調査支援登録の開始、サポートイン仙台の開設
＜問い合わせ先＞住まいとまちづくりコープ（山下）
メール: sumaimachi@sumaimachi.net
TEL: 03-5986-1630 FAX: 03-5986-1629
- * 震災復興支援会議（第1回会合）の開催
- * 今後の活動について【別紙1】



新建東日本大震災復興支援会議を設立しました

2011年4月5日、新建築家技術者集団は、建築とまちづくりの専門家集団である全国組織として、被災地（東北だけでなく関東や信越を含めた）の活動と協働して、その復興を支援することを目的に、全国常任幹事会に付属する新建東日本大震災復興支援会議（略称：新建復興支援会議）を設立しました。【[設立趣意書](#)】

「東日本大震災」救援募金を呼びかけます

新建築家技術者集団では、4月12日18日に開催された全国幹事会で救援募金活動を決定し、全国のみなさんに救援募金の呼びかけを行っています。詳細は【[こちら](#)】をご覧ください。

5月28日(土) 東日本大震災学習会 を開催します【京都】

東日本大震災学習会

1月11日の東日本大震災による被災地復興支援活動の経験や学びを共有し、今後の復興活動に活かす。被災地支援の現状や課題、被災地支援の今後の展望について、被災地支援の経験や学びを共有し、今後の復興活動に活かす。被災地支援の現状や課題、被災地支援の今後の展望について、被災地支援の経験や学びを共有し、今後の復興活動に活かす。

時：5月28日(土) 午後1時30分～4時30分
所：生協会館 4階 第1会議室
議題：1. 復興支援の現状と課題
2. 被災地支援の今後の展望
3. 被災地支援の経験や学びを共有し、今後の復興活動に活かす。

東日本大震災学習会

日時：2011年5月28日(土) 午後1時30分～4時30分
会場：生協会館 4階 第1会議室
(京都市中京区烏丸夷川東入 西九軒町281)
主催：まちづくり市民会議、日本科学者会議京都支部
国土問題研究会、新建築家技術者集団京都支部

詳細は【[こちら](#)】をご覧ください。

5月29日(日) みやぎ県民センター設立のつどいを開催します【宮城】

ホーム

新建の取り組み

[提言/声明など](#)

[救援募金の呼びかけ](#)

[救援ボランティア](#)

[被災地の復興支援](#)

★[現地相談会の開催](#)

★[支援登録とサポートイン仙台](#)

[被災地からの報告](#)

[ディスカッション](#)

諸団体/個人の取り組み

[提言/声明など](#)

国の動向

地域別の情報

[岩手県](#)

[宮城県](#)

[福島県](#)

[千葉県](#)

福島原発問題

課題別別の情報

[被害分析](#)

[避難所](#)

[後方支援](#)

[遠方避難](#)

[仮設住宅](#)

東日本大震災による現地状況と、
石巻市十三浜地区での結による
復興の芽生え

仙台市、名取市の状況



仙台市内

緑ヶ丘

長町

荒浜

関上



若林区荒浜地区（津波で全てなぎ倒された田園地帯）







被災した下水処理場

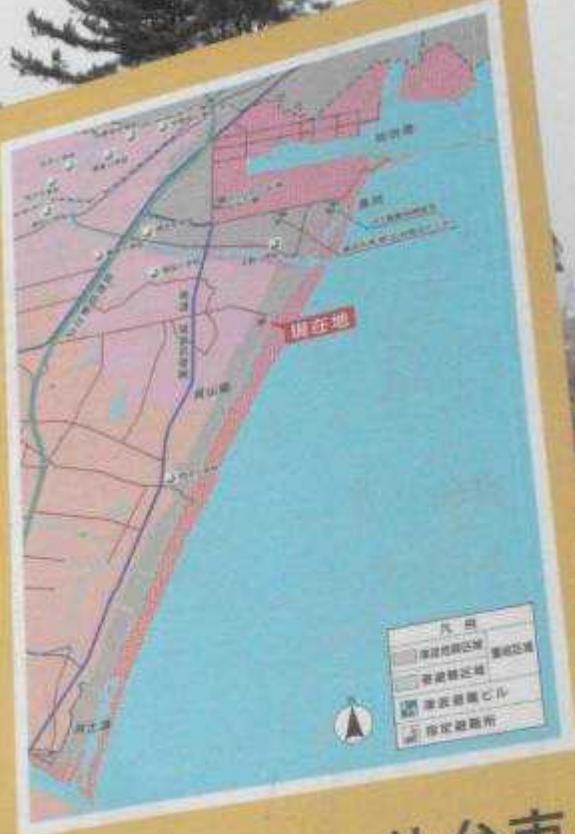
津波警戒区域

Tsunami Hazard Zone

海啸警戒区域
지진해일 경계 구역



地震が起きたら津波に注意し、
すぐに津波警戒区域外へ避難
しましょう。



凡例	
	津波危険区域
	津波避難経路
	津波避難ビル
	津波避難所

仙台市



名取駅周辺



名取市閑上地区





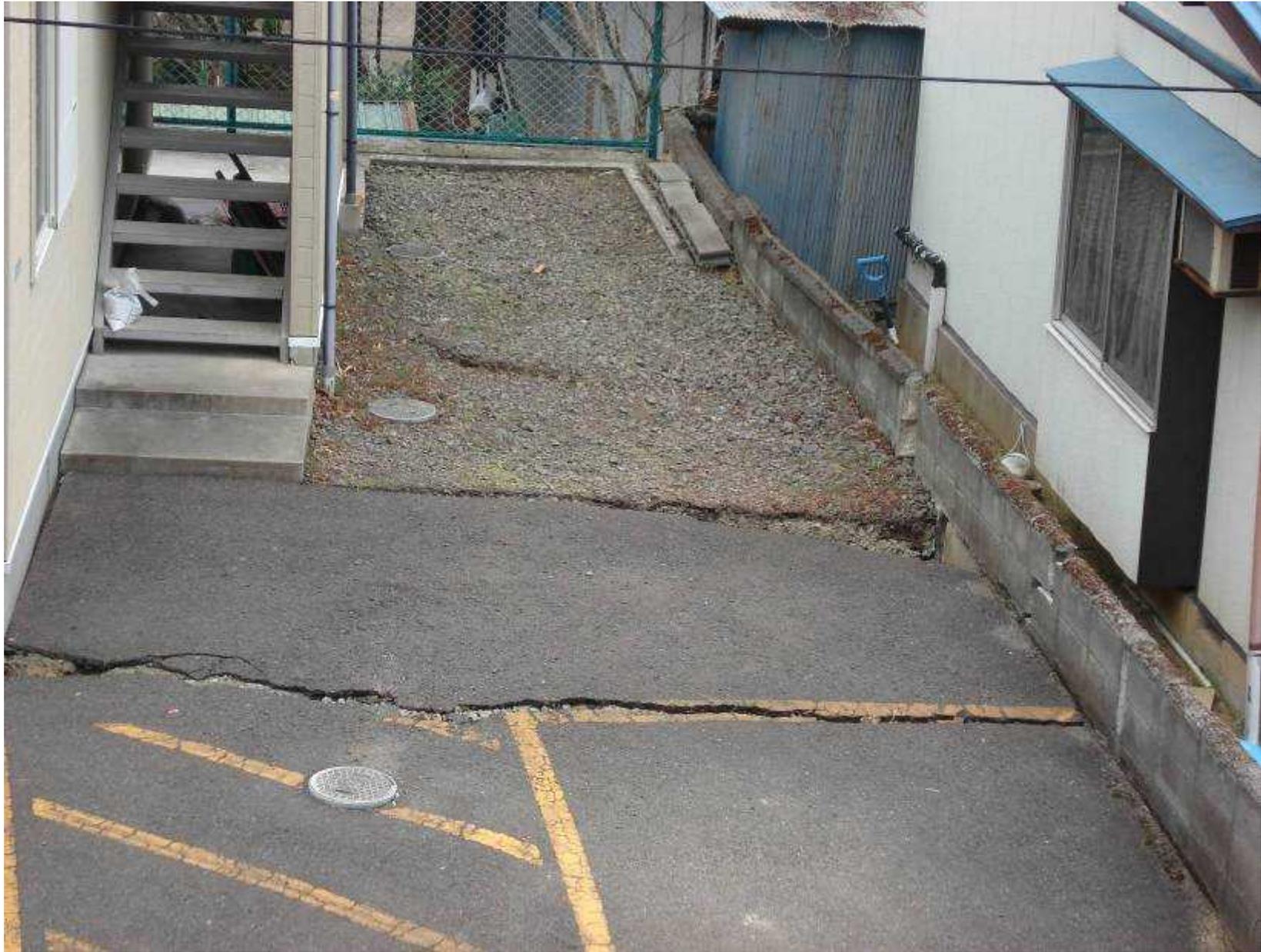








仙台市太白区緑ヶ丘四丁目(地滑り被害)





建物も損傷

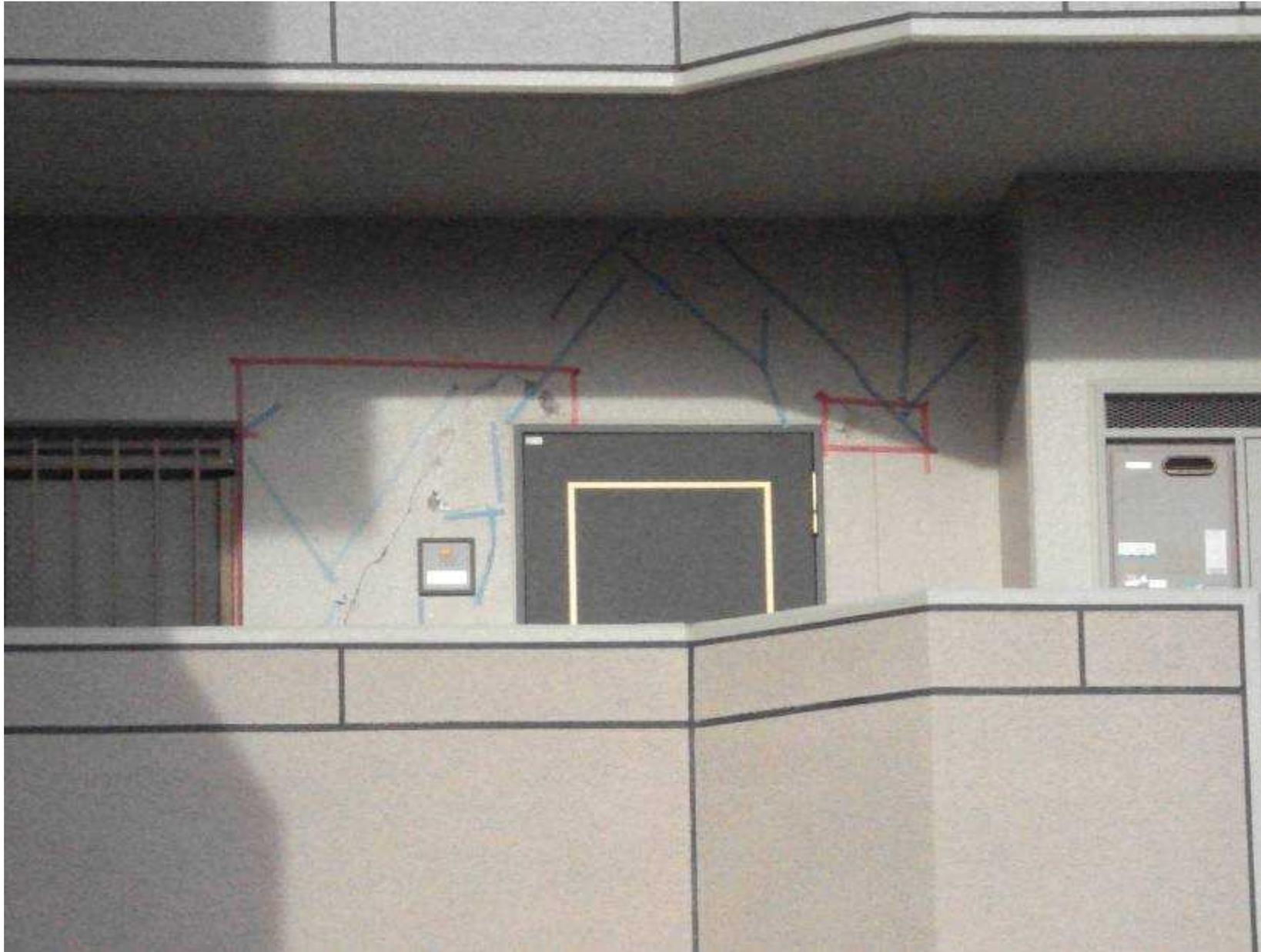


ブロック塀の崩壊



仙台市長町駅周辺(液状化被害)





仙台市中心部(地震による壁のひび割れ)



EXP-Jカバーの落下



マンションの火災発生



外装材(パネル・ガラス)の破損



屋根瓦の落下



外壁材の破損



ブロック塀の崩壊



名取市館腰小学校の避難所



仙台市長町駅操車場跡地における仮設住宅建設(119戸)



石巻市北上町十三浜の状況

十三浜：北上川沿いに形成された620世帯程の地域

小指

熊谷産業





1mの地盤沈下で水位の上昇した北上川



茅葺き屋根で有名な熊谷産業のあった集落
(北上川をのぼった津波による被害)



住民の共同作業(がれき撤去)で復旧した道路



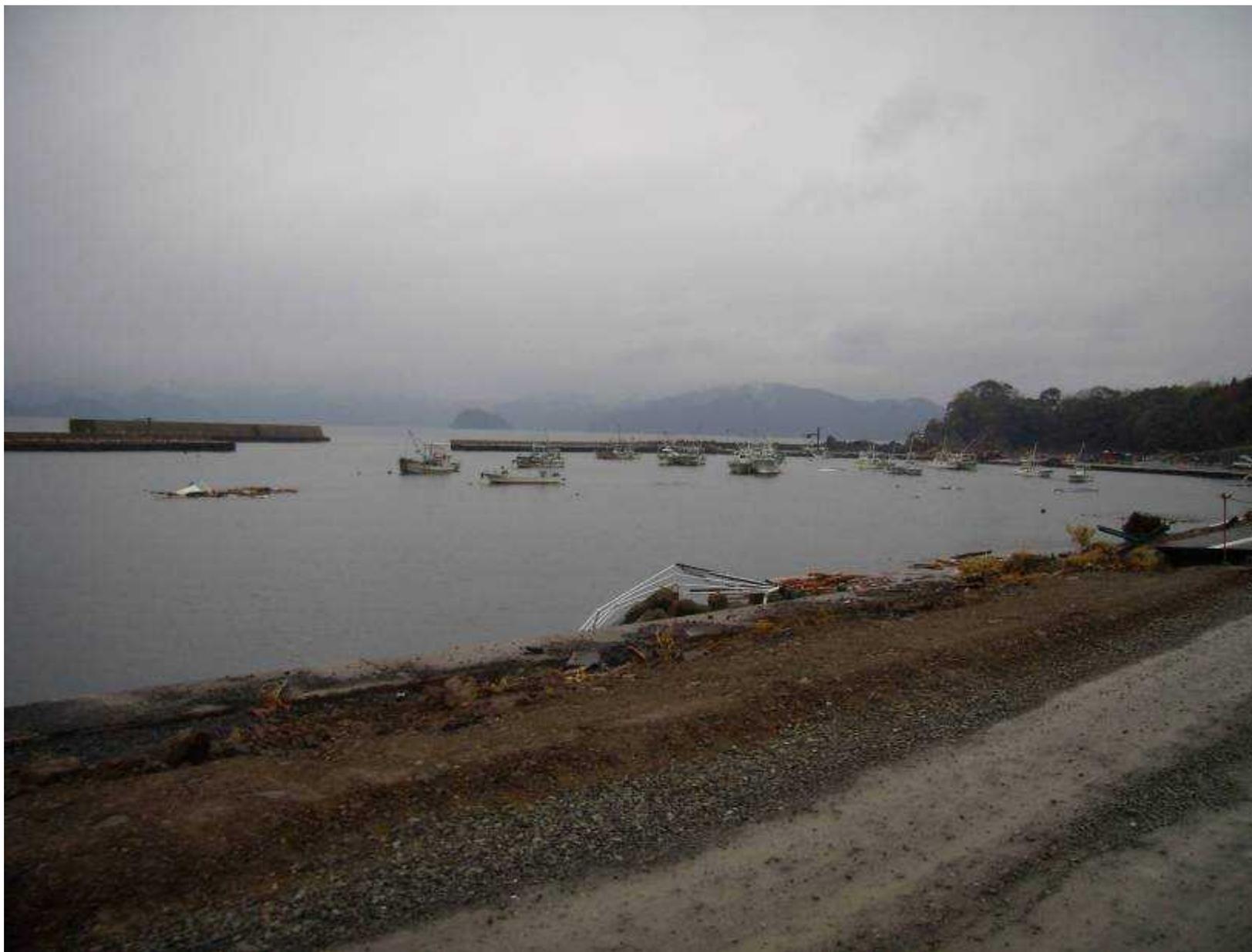
石巻市北上総合支所(18名が亡くなった)



隣接する吉浜小学校(8名の生徒が亡くなった)



十三浜の集落は大きな被害を受けている



大室(船は沖に出たため被害を免れた)



相川港(津波にさらわれた防潮堤)



津波にさらわれた国道



沿岸に唯一残っていた漁師さんの木造住宅



漁師さんと奥さん

- * 地震発生後の10分後にご主人は船で沖へ出た。
- * 奥さんは高台へ避難。海の底が見えたら三倍の高さの津波が来るといふ教えから、更に高台へ避難した。



十三浜小指地区(佐々木さんの自宅兼事務所)



十三浜小指地区(佐々木さんの自宅兼事務所)



佐々木さんの事務所片付けのお手伝い(屋根架け)



海拔20m以上だが津波
が登ってきた(奥が海)



事務所部分の様子



佐々木さんのいる避難所(北上子育て支援センター)



共同作業でひいた沢水



携帯電話基地局



仮設トイレ(お風呂は自衛隊の入浴サービスを利用)



炊事場(燃料は廃材)



昼食の準備



避難所内部

■ 復旧・復興に向けての課題と意欲 (災害対策本部での懇談より)

* 漁に出るにも、港の修理、道具の確保が必要。魚が捕れても売るところがない。十三浜わかめもダメージを受けた。汚染物が流れているので、この辺りの魚は食べない方が良くという話も出ている。仕事の見通しがたたないので、とりあえず自給自足するしかない。

→職の問題(土木作業に出始めている方もいる)

* 後回しにされることが一番心配である。国として面倒を見てほしい。ただし、行政支援を待っているだけでは動かない。自分達でやりたいことを示していないといけない。ここで生きていく設計図をたてたい。

* これまでの集落より10m程高いところに、山を押しして(拓いて)家を建てたいという希望はある(20~30人はいると思う)。自主的なアンケートをして、希望者がみんなに住める場所を探したい。行政もここまでは手が回り切らないだろうが、仮設住宅の用地も復興住宅も自分達でやるぐらいの覚悟はある(大工も30人くらいいる)。そのためにも国のしっかりした支援が欲しい。

→まずは応急仮設住宅が必要！ その後の復興住宅の展望づくりも必要！！



昭和8年の津波による移転でできた集団地

■外部からの支援活動

- * 水辺の掃除ボランティア隊SEAVERS(シーバーズ)十三浜
→仙台の海藤さんによるネットワークづくりをきっかけに、山形や東京の方が川の掃除から始めるボランティア活動を展開。佐々木さんの事務所の東半分を活動拠点として利用している。
- * 婦人の友・小山さん
→避難所のボランティアの他、5月号で現状を紹介。
- * 「職人でつくる木の家ネット」
→東京の会員の方による支援で、「木の家再生支援プロジェクトチーム」として宮城県の応急仮設住宅供給の提案募集に応募できた。
- * 民家再生協会
→ノートPCやチェーンソー、高圧水洗浄機、発電機などの資材提供支援が行われている。
→会員である江戸川区職員の方もお見舞いの訪問を行ったとのこと。
- * 東北大学・土屋先生など
→避難所に太陽光発電装置の支援が行われている。別経路の支援にて佐々木さんの事務所屋根にも設置できることになった。
- * 聖路加大学・眞鍋先生
→避難所の子どものケアで支援をされている。
- * 新建築家技術者集団
→5/27か28で神奈川支部の方が支援に行く。

各地の状況

東日本大震災で、犠牲になられた方々のご冥福を深くお祈りするとともに、被災地のみなさまに心よりお見舞い申し上げます。

鎮魂と連帯の響き



2011 5月8日(日) 午後 2:30~3:30 名取市関上地区日和山にて

(雨天でも行います)

3月11日におきた大震災により、一瞬にして故郷が失われ、たくさんの方々の尊い命が奪われ、私たちはこの未曾有の災害に言葉を発することができません。

「つながって生きてこな」16年前に阪神淡路大震災の被災地に音楽で支援活動をした際に発信してくださったメッセージです。地震の起きた2時46分に鎮魂と連帯の気持ちを音楽にかえて、サイレントタイムのひとつときをご一緒に過ごしていただきたく思っています。ぜひお集まりください。

主な演奏曲「鎮魂と連帯の調べ」



アヴェマリア (シューベルト作曲) / タイスの瞑想曲 (マスネー作曲)

ユーモレスク (ドヴォルザーク作曲) / 斉太郎節 (川崎絵都夫編曲)



松本克巳(ヴァイオリン)と相馬泉美(電子ピアノ)
埼玉県坂戸市役所庁舎ロビーでの鎮魂コンサート4/11(月)



林 真山 (尺八)
日和山で4/6(火)

正義・人権・平和の思いを音楽に託して・・・愛とヒューマンのコンサート

1989年に坂本弁護士一家の事件が起きました。坂本堤さんはヴァイオリンを、都子さんはフルートを奏でていました。二人と親しかった音楽仲間が5年10ヵ月に及ぶ救出と結末後の演奏活動に《愛とヒューマンのコンサート》と名付けて、彼らの思いを伝える活動を行なっています。阪神淡路大震災、新潟県中越地震、新潟県中越沖地震などの被災地でも、私たちの友人や市民の募金で支援の演奏活動を続けています。

愛とヒューマンのコンサート委員会 代表 今野 強

日本フィルハーモニー交響楽団 第一ヴァイオリン奏者 松本克巳



主催) 宮城県高等学校・障害児学校教職員組合
住まいと環境改善ネットワーク
愛とヒューマンのコンサート委員会

現地連絡先) 高教組 〒981-8560 仙台市青葉区柏木 1-2-45 フォレスト仙台
TEL 022-234-1335 FAX 022-273-1767

東京連絡先) ネットワーク 〒174-0072 板橋区南常盤台 1-38-11-1F 住まいとまちづくりコープ
メール sumaimachi@sumaimachi.net 千代崎一夫/山下千佳



東松島市へのコンテナバスユニット設置
(福岡支部・福永さん、東京支部・丸谷さんらの取り組み)

被災マンション支援制度を紹介 仙台で相談会



被害を受けたマンションの住民に国の支援制度を説明する岩渕さん(右)＝22日、仙台市青葉区のショーケーブル

東日本大震災で自宅マンションが被災した人たちのための相談会が22日、仙台市青葉区のショーケーブルで開かれた。

新建築家技術者集団(東京都)宮城支部の事務局長で、仙台市青葉区の技術士岩渕善弘さんらが講師を務め、国の支援制度などを紹介した。

岩渕さんらは、被災者生活支援法により最大で300万円、災害救助法に基づく応急修理制度では最大で52万円を受け取れることを説明。共有部分の損壊については、自室とは別にマンション管理組合として申請できることを助言した。

出席した仙台市内の約40人がメモを取りながら熱心に聞き入っていた。

この後、新建築家技術者集団の首都圏の支部に所属する1級建築士らが個別相談にも応じた。出席者からは「行政の建物被害認定の判定に納得できない場合、2次判定、3次判定へと粘り強く交渉しなければならないことを学んだ」といった感想が寄せられた。

相談会は共産党宮城県議団と仙台市議団が開いた。

河北日報 2011年5月24日付

<結成の呼びかけ>

戦後最大の死者・行方不明者を出し、いまだに収束しない東日本大震災。甚大な地震と津波被害および火災・原発事故による複合型災害であること、被災地が農漁村と大都市の超広域にわたること、数十万人の被災者の生活再建と漁業・農業・中小企業等の生業再建に膨大な財政と年月を要することなど、まさに未曾有の災害です。

阪神・淡路大震災の復興では、災害関連死や複合的なローンに苦しむ人、住民が戻れない地域を生む失敗がありました。その教訓を東日本大震災からの復旧・復興に生かして、一人ひとりの被災者のくらしと生業、被災地の地域コミュニティの再建を進めることが求められています。「被災者・被災地を主体にした復旧・復興」が名実ともに真かれるよう、発言し行動するとともに、被災者・被災地の取り組みを支援する役割を果たす県民センターの設立を呼びかけるものです。あなたが復興の主人公です。

2011年5月

▶よびかけ人 青木正芳（弁護士、元日弁連副会長）
小沢かつ（宮城県母親大会連合会長）
北村龍男（医師、宮城県保険医協理理事長）
網島不二雄（元山形大学教授）
森久一（山元町・元町長）

東日本大震災復旧・復興支援 みやぎ県民センター設立のつどい

日時 **5月29日(日)** 13時30分～16時頃

入場無料
予約不要

会場 **仙台国際センター 会議室「萩」**

青葉区青葉山手町 TEL.022(265)2211 仙台市営バス「博物館、国際センター」下車

※被災地からの発言、被災者支援に関わる発言を多数お願いしています。

記念講演

しおざき よしみつ
塩崎 賢明氏

神戸大学大学院工学研究科教授・工学博士
兵庫県震災復興研究センター代表理事



プロフィール▶都市計画と住宅政策が専門。阪神淡路大震災後は震災復興論の研究と多岐型まちづくりにたずさわる。著書は、「大震災15年と復興の備え」（共著等、クリエイツかもがわ、2010年）、「住宅復興とコミュニティ」（日本経済評論社、2009年）、「災害復興が作る」（共著等、クリエイツかもがわ、2007年）、「大震災を越えよう」（共著、神戸新聞総合出版センター、2002年）、「大震災と人間復興」（共著、青木書店、1996年）など多数。自費出版した「民間自力活用とコミュニティ保全による震災住宅復興のあり方に関する研究」（2007年）が日本建築学会賞を受賞。

お問い合わせ先

一番町法律事務所（菊地修弁護士）
〒980-0811 仙台市青葉区一番町2丁目10-24 2F/2層
電話 022(262)1901 FAX 022(267)0144

被災者・被災地が主体の復旧・復興を！
— 阪神・淡路大震災の教訓から学んで —



福島県いわき市での木造仮設住宅の建設
(新建でも講演いただいた筑波大学安藤邦廣先生らの取り組み)

新建築千葉支部 液状化についての研究会

「東日本大震災による液状化—流動化の被害状況と 発生メカニズム」

東日本大震災は、地震や津波による大被害に加え、原発による放射線の被曝と、東北地方から関東にかけての広範囲の地域に未曾有の災害をもたらしました。

千葉県内でも、旭市飯岡地区の津波被害、そして、浦安市・千葉市などの沿岸地域や香取市・我孫子市などの内陸部では、「液状化—流動化」による地盤の沈下、建物の傾斜、ライフラインの損壊などの被害を生じています。

液状化により傾斜した建物の復旧作業が一部で始まりましたが、液状化によってゆるんだ地盤の沈下は一定の期間継続することや、繰り返し液状化が起こる恐れもあることなどから、復旧工事は工法を選択を含め慎重に行う必要があります。選択を誤ると隣地に二次被害を及ぼす恐れさえあります。

建築技術者には、液状化被害に対する補修などに積極的に関わっていくことが求められていますが、なにより正確な知識を持って適正な工法を選択等を行うことが必要となっています。

このような状況から、急ぎよ、これまでも液状化の調査・研究を精力的に進めてこられた千葉県環境研究センターの主席研究員の楠田さんに、過去や今回の「液状化—流動化」による被害状況、液状化の仕組みや補修における課題などを話していただくこととしました。

皆様のご参加をお待ちしています。

- 日時：5月12日（木） 午後18：30～
- 場所：千葉民会館 3階 第5会議室
JR千葉駅東口から徒歩7分
- 講師：楠田 隆氏
千葉県環境研究センター
地質環境研究室 主席研究員
- 参加費：一人1,000円（資料代を含む）



主催：新建築家技術者集団千葉支部

申込・問合せ：新建築家技術者集団千葉支部事務局
(株)ゆま空間設計 加瀬澤
office@yumaku-kan.co.jp
TEL 043-253-8901
FAX 043-253-8906
千葉市若葉区みつわ台5-4-14



尚、資料準備のため必ず予め申込み下さい。会場の都合上先着36名とさせていただきます。

東日本大震災 チャリティージャズライブ 「甦れ釜石！甦れ仙台！」

2011. 5月7日(土) 18時開場
18時30分開演～21時閉会

■会費3000円(1ワイン付)
■会場 求道会館
113-33 東京都文京区本郷6-20-5
☎03-6804-5282

■メッセージ

トランペットの白澤さんは、釜石出身。
白澤さんのお兄様夫婦とお姉さま夫婦が釜石で被災されましたが、幸い、ご無事だったとのこと。
ドラムの守さんは、仙台のご実家が被災されました。
主催者の丸谷と高橋里実さんが、知り合いであったためこのチャリティーライブが生まれました。
会場は、丸谷と芸大の講師仲間である近角真一氏が管理されている求道会館で行ないます。大正4年に建設され、関東大震災に被災しているこの建物でのライブです。その空間と建築の素晴らしさも皆様にお伝えしたいことです。

■演奏者/詳しい紹介は、ブログをご覧ください。→<http://japanroad.exblog.jp/132/>

トランペット 白澤 茂(釜石出身)
ドラム 守 新治(仙台出身)
ピアノ 市川 秀男
ベース 河上 修
サクソ 高橋 里実



■主催・申込み受付
motherboard2011

甦れ釜石！甦れ仙台！支援集団
(世話人・丸谷博男)

fax03-5431-6031 または mail/ h.maruya@a-and-a.net

■後援・新建築家技術者集団東京支部→<http://www.shinken-tokyo.org/>

■ワイン・日本酒提供/japan import system 小澤酒造株式会社

■「求道会館」とは

僧侶・宗教改革者の近角常範が、自らの宗教体験を青年学生と複食を共にしながら語り継ぐ場として設立したのが「求道学舎」です。その敷地内に、この「求道会館」は建てられています(共に武田五一の設計)。内部は椅子式、ハンマービームトラスの小屋根、周囲に巡らせたギャラリーと、キリスト教会風の空間構成ながら、そこに六角形の厨子を壁から突出させ、また、記文様の高欄を配して伝統的な和風建築の要素を併存させるなどして、特異な空間をつくっています。この無国籍性は、創設者・近角が推進した仏教運動の革新性と照応しています。

復旧・復興についての政策等の動き

- * 内閣の東日本大震災復興構想会議、
国会の東日本大震災復興特別委員会
- * 岩手県東日本大震災津波復興委員会
- * 宮城県震災復興会議
- * 福島県復興ビジョン検討委員会
(震災復興会議メンバーが委員をされている)
- * 市町村での検討
(大船渡市、女川町では震災復興会議メンバーが委員をされている)

自分たちに何ができるか

＜活動イメージ＞

- ・それぞれの地域で学習会や相談会の開催

参考資料:『災害対策マニュアル』(編集・発行 全国災対連)【別紙3】

- ・支援登録(すぐに行かれなくても)
- ・被災地へ足を運ぶ。調査と要請(相談会など)に応える。

※新建も構成団体の一つで、世話人団体をしている全国災対連で紹介されている「救援活動災害補償保険(天災特約付き)」(全労連共済)をご利用ください。

<http://www.fukkoushien-nuae.org/>被災地の復興支援/

- ・情報の発信(ホームページ等)
- ・支援金の協力